

## 【シラバス】

科目名	1 職務の理解		
目 標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実践し、以降の研修に実践的に取り組むことができる。		
項 目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(1) 多様なサービスの理解	《講義》 ・介護保険サービス（居宅、施設）の概要を説明する。 ・介護保険外サービスの概要を説明する。	3 時間	—
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	《講義》 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容を説明する。 ・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種、介護保険サービスを含めた地域の社会資源との連携について説明する。 《演習》 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ化を行うために、DVD教材の視聴とグループワークを行う。	2 時間	1 時間
合 計 6 時間			
使用する機器、備品等	視聴覚教材(DVD)、パソコン、プロジェクター、スピーカー		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第1巻		

## 【シラバス】

科目名	2 介護における尊厳の保持・自立支援		
目 標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護/福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解することができる。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) — ① 人権と尊厳を支える介護	《講義》 ・人権と尊厳の保持（居宅、施設）の概要を説明する。 《演習》 ・尊厳とは何か？人権とは何か？に向き合うため、個人ワークとグループでのディスカッションを行う。	2 時間	1 時間
(1) — ② 人権と尊厳を支える介護	《講義》 ・高齢者虐待防止、養護者の支援、身体拘束禁止について説明する。 ・個人の権利を守る制度の概要を説明する。 《演習》 ・虐待に対する認識を高めるため、事例を通して虐待類型と具体的な対処例を考える。	1 時間	2 時間
(2) 自立に向けた介護	《講義》 ・ICF、QOL、重度化防止、自立支援の基本的な考え方を説明する。 ・介護予防の制度、考え方を説明する。 《演習》 介護予防及び健康予防のために、糸魚川地域に現在存在する社会資源と今後必要と思われる社会資源をグループワークで考える。	1 時間	2 時間
合 計 9 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、付箋、マジック、模造紙		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第1巻		

## 【シラバス】

科目名	3 介護の基本		
目 標	①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解することができる。 ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	《講義》 ・介護環境の特徴と地域包括ケアの方向性に対し説明する。 ・介護の専門性、重度化の防止、チームケアの重要性について説明する。 ・異なる専門性を持つ多職種を理解し、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、連携について説明する。 《演習》 ・事例を用い、自立を支援するサービスや事業をグループワークで考える。	1 時間	1 時間
(2) 介護職の安全	《講義》 ・介護職の心身の健康管理として、ストレスマネジメントやメンタルケアについて説明する。 ・腰痛予防や手洗いとうがいの励行、感染症対策について説明する。	1 時間	—
(3) 介護職の職業倫理	《講義》 ・専門職の倫理の意義、介護の倫理について説明する。 ・介護職としての社会的責任、プライバシーの保護、尊重について説明する。	2 時間	—
(4) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	《講義》 ・介護における安全の確保のため、事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザードについて説明する。 ・事故予防のリスクマネジメントとして、分析の手法と視野、報告等の情報の共有について説明する。	1 時間	—
合 計 6 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、付箋、マジック、模造紙		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第1巻		

## 【シラバス】

科目名	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携		
目 標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙することができる。		
項 目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(1) 介護保険制度	《講義》 ・介護保険制度創設の背景及び目的、動向について、ケアマネジメントや地域包括支援センターの設置等について説明する。 ・介護保険制度の基本的仕組み、介護給付及び予防給付の種類、要介護認定の手順について説明する。 ・制度を支える財源、組織及び団体の機能と役割をについて説明する。	3 時間	—
(2) 障害者自立支援制度及びその他制度	《講義》 ・障害者福祉制度の理念、ICFの概念に対して説明する。 ・障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解について説明する。 ・個人の権利を守る制度としての個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業について説明する。	3 時間	—
(3) 医療との連携とリハビリテーション	《講義》 ・医療行為と介護について関りを説明する。 ・リハビリテーションの概念、リハビリテーションに必要な専門職、生活の質（QOL）について説明する。 《演習》 ・吸引器、血圧計、パルスオキシメーターを用いて動作確認や測定を行う。	2 時間	1 時間
合 計 9 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、吸引機、血圧計、パルスオキシメーター		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第2巻		

## 【シラバス】

科目名	5 介護におけるコミュニケーション技術		
目 標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきではない）行動例を理解することができる。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) 介護におけるコミュニケーション	《講義》 ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について説明する。 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーションの特徴について説明する。 《演習》 ・家族の心理や介護、利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際を体験するためにロールプレイを行い追体験をすることができる。	2 時間	1 時間
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	《講義》 ・記録における情報の共有化をするため、介護における記録の意義や目的、利用者の状況を踏まえた観察を説明する。 ・介護に関する記録の種類、ヒヤリハット報告書や個別援助計画について説明する。 《演習》 ・コミュニケーションを促す環境として、役割の認識やケアカンファレンスの重要性を知りロールプレイにて体験を行う。	2 時間	1 時間
合 計 6 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第2巻		

## 【シラバス】

科目名	6 老化の理解		
目 標	加齢、老齢に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解する事の重要性に気づき、自らが積極的に学習すべき事項を理解することができる。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) 老化に伴う心とからだの変化と日常	《講義》 ・老齢期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴を知る。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活の影響について説明する。 《演習》 ・加齢に伴う体の変化を高齢者疑似体験キットを用いて体験する。	2 時間	1 時間
(2) 高齢者と健康	《講義》 ・高齢者に多い疾病と、特徴、症状や生活上の留意点を説明する。 ・高齢者の疾病による症状や訴え、心理的な変化について説明する。 《演習》 ・高齢者に多い症状をグループで話し合い、高齢者に多い老化モデルをイメージ化していく。	2 時間	1 時間
合 計 6 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、模造紙、付箋、マジック		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第3巻		

## 【シラバス】

科目名	7 認知症の理解		
目 標	介護において認知症を理解することの気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解することができる。		
項 目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(1) 認知症を取り巻く状況	《講義》 ・認知症ケアの理念として、パーソンセンタードケアやできることに着目した視点を説明する。	1 時間	—
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	《講義》 ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアポイントや健康管理について説明する。 ・認知症の定義や物忘れとの違い、せん妄症状や治療の実際を説明する。 《演習》 ・物忘れと認知症、せん妄との違いをグループワークで整理するために話し合う。	1 時間	1 時間
(3) 認知症に伴うこころと体の変化と日常生活	《講義》 ・認知症の行動、心理症状及び中核症状といった生活障害、行動の特徴について説明する。 《演習》 ・本人の気持ちを推察し、プライドを傷つけないためのコミュニケーション方法を知るためのロールプレイ	1 時間	1 時間
(4) 家族への支援	《講義》 ・介護負担の軽減（レスパイトケア）や認知症の受容課程での援助、家族の心理について説明する。	1 時間	—
合 計 6 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、模造紙、付箋、マジック		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第3巻		

## 【シラバス】

科目名	8 障害の理解		
目 標	障害の概念とICF（国際機能生活分類）、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解することができる。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) 障害の基礎的知識	《講義》 ・障害者福祉の基本理念とICFの分類、医学的分類、考え方について説明する。 ・ノーマライゼーションの概念に対して説明する。	1 時間	—
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的知識	《講義》 ・身体障害、知的障害、精神障害における特徴や症状、支援の方法に対して説明する。 ・その他の心身機能障害についての説明	1 時間	—
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	《講義》 ・障害の理解と受容支援、介護負担の軽減に対して説明をする。 《演習》 ・事例から家族の心理とかかわり方をグループワークで考える。	30分	30分
合 計 3 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカー、マジック、付箋、模造紙		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第3巻		



## 【シラバス】

科目名	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (基本知識の学習)		
目 標	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護を実施することができる。 ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項 目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(1) 介護の基本的な考え方	《講義》 ・ ICFの視点に基づく生活支援と、法的根拠、理論に基づく介護、介護保険制度によるサービスについて説明する。	3 時間	—
(2) 介護に関するこころのしくみの基本的理解	《講義》 ・ 高齢者の心理に現れることが多い感情と意欲、学習と記憶に対する基礎知識について説明する。 ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、自己実現と生きがいがいづくりについて説明する。 《演習》 ・ 高齢者の自己実現のため、生きがいがいづくりには何が必要かグループワークで話し合う。	2 時間	1 時間
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	《講義》 ・ 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識として、骨や関節、筋肉や神経に関する基礎知識を知るために説明する。 ・ ボディメカニクスの原則と介護への活用、中枢神経と体性神経に関する基礎知識について説明する。 ・ 自立神経と内部器官に関する基礎知識を説明する。 ・ 高齢者の普段の様子と異変時の様子が比較できる視点を持つための説明。 《演習》 ・ こころとからだのしくみに対する理解を深めるための小テストの実施と解説	4 時間	2 時間
合 計 12 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカ、模造紙、付箋、マジック		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第4巻		

## 【シラバス】

科目名	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 （生活支援技術の学習）		
目 標	<p>①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護を実施することができる。</p> <p>②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p>		
項 目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(4) 生活と家事	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活の支援について説明する。</li> <li>・掃除、洗濯、調理、買い物やゴミ出しに関する基礎知識と支援について説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理や掃除、洗濯の過程を個人ワークで考え、適切で効率のよい方法や過程をグループで話し合う。</li> </ul>	2 時間	4 時間
(5) 快適な居住環境整備と介護	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境整備に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の住環境整備としてバリアフリーの概念や家庭内に多い事故の説明をする。</li> <li>・福祉用具に関する留意点と住宅の改修方法、支援方法について説明する。</li> </ul>	3 時間	—
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識、支援技術について説明する。</li> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、自立への援助やQOLの向上について説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容の支援技術に関する実技を行う。</li> <li>・身体状況の確認、室内環境の調整に関する実技を行う。 (衣服の着脱、爪切り、口腔ケア、パジャマの交換等)</li> </ul>	1 時間	5 時間

項目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(7) 移動、移乗に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動、移乗方法に関する用具とその活用方法について説明する。</li> <li>・利用者・介助者の双方にとって負担の少ない移動、移乗方法及び阻害するところとからだの要因の理解、支援方法を説明する。</li> <li>・移動と移乗により可能となる社会参加の留意点と方法を説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動、移乗の支援技術に関する実技を行う。</li> </ul> <p>(体位交換、移動介助、歩行介助、車いす介助等)</p>	2 時間	1 0 時間
(8) 入浴、清潔に関連した ところとからだのしく みと自立に向けた介護	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴、清潔保持に関連した基礎知識とさまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の支援技術に関する実技を行う。</li> </ul> <p>(足浴、洗髪及び洗身における介助、家庭浴槽における介助、清拭による介助)</p>	2 時間	4 時間
(9) 睡眠に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介助	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・睡眠に関連する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因について説明する。</li> <li>・安眠のための介護の工夫と環境の整備、寝たきり予防のための自立に資する介護を説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良眠のために効果が見込まれる支援技術の実技を行う。</li> <li>・介護環境による睡眠の質を向上させる技術の実習を行う。</li> </ul> <p>(ベッドメイキング、特殊寝台、エアマットを用いた介助)</p>	2 時間	2. 5 時間

項目	内 容	講習時間	
		講 義	演 習
(10) 食事に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介助	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事に関連する基礎知識、食事に関連したさまざまな用具の活用方法を説明する。</li> <li>・からだのしくみと楽しい食事を阻害する要因の支援方法について説明する。</li> <li>・脱水と低栄養、嚥下や咀嚼のメカニズムについて説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害に応じた食事介助の実技を行う。</li> <li>・口腔ケアの実技を行う。</li> <li>・介護環境に応じた食事の介助を行う。</li> </ul> <p>(口腔ケア、食事介助、環境による食事の実践)</p>	2 時間	4 時間
(11) 排泄に関連したところ とからだのしくみと自 立に向けた介助	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄に関連する基礎知識、排泄に関連したさまざまな用具の活用方法を説明する。</li> <li>・プライバシーの確保、プライド、羞恥心の存在、おむつ使用の弊害など排泄ケアを受ける事で心理的な負担、尊厳や生きる意欲との関連を説明する。</li> </ul> <p>《演習》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつの交換、陰部洗浄における介助の実技を行う。</li> <li>・ポータブルトイレやトイレで行われる排泄の実技を行う。</li> </ul> <p>(ベッド上やトイレ内での排泄介助の実践、ポータブルトイレや尿器を用いた排泄介助の実践)</p>	2 時間	4 時間
(12) 死にゆく人に関連した ところとからだのしく みと終末期介護	<p>《講義》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期に関連する基礎知識とところとからだのしくみについて説明する。</li> <li>・死に向き合うところの理解と苦痛の少ない死への過程について、ターミナルケアの考え方を説明する。</li> <li>・ターミナルケアの留意点と多職種との連携について説明する。</li> </ul>	1.5 時間	—
合 計 5 1 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカ、模造紙、付箋、マジック、ベッド、タオル、バスタオル、寝間着、パジャマ、衣類一式、歩行器、杖、車椅子、ポータブルトイレ、紙おむつ、尿取りパット、プラスチック手袋、陰部洗浄用ボトル、ポリ袋、バケツ、レジャーシート、トイレットペーパー、シャンプー、ボディソープ、洗髪器、ペットボトル、食事介助用食材、トロミ剤、食器一式		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第4巻		

## 【シラバス】

科目名	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (基本知識の学習)		
目 標	①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護を実施することができる。 ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(13) 介護課程の基礎的理解	《講義》 ・利用者の状況を把握するアセスメントをもとにした介護計画の作成と、それをもとにした技術の裏付けのある介護の実施と評価について説明する。 《演習》 ・事例から個人ワークによりアセスメントを考える。 ・作成したアセスメントをもとに、介護計画案の作成をグループで行う。	1 時間	5 時間
(14) 総合生活支援技術演習	《演習》 ・生活場面での介護について、事例を通じて一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を行うための演習を行う。 ＊実施事例 高齢者の事例（認知症、片麻痺、座位保持不可等より、2－3事例を用いて実施する。	—	6 時間
合 計 1 2 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカ、模造紙、付箋、マジック		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第4巻		

## 【シラバス】

科目名	10 振り返り		
目 標	<p>これまでの研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習、研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を高める確認を行う。</p>		
項 目	内 容	講 習 時 間	
		講 義	演 習
(1) 振り返り	<p>《講義》 ・研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきことのポイントを説明する。 ・事業所等におけるOJT・Off-JTの実際について説明する。 《演習》 ・これまでの学習の振り返りとなる自己評価を個人ワークとして実施し、グループ討議により他者の発表を聞くことで追体験を行う。</p>	1 時間	1 時間
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修	<p>《講義》 ・研修終了後も継続して学ぶべきことについて説明する。 ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージができるような事業所等における取組みを紹介する。 《演習》 ・介護の仕事を学び、どのような介護職になりたいかグループディスカッションを行う。 ・就業を行うことに対しての課題や不安、疑問点に対する個人ワークの実施。</p>	1 時間	1 時間
合 計 4 時間			
使用する機器、備品等	パソコン、プロジェクター、スピーカ、模造紙、付箋、マジック		
使用するテキスト	公益財団法人介護労働安定センター 介護職員初任者研修テキスト 第4巻		